

Libre Kuma はん Biflos Book



永野 信利 『外務省研究』

中嶋 嶺雄
(東京外大助教授)



務省の旧弊にメスを加えんと
して、キャリア万能主義、学
閥、閥閥、任地閥、立身出世
主義、人事のよとみなどを、
生のデータ(ポストと人名)
をあげて分析している。

古くは陸奥宗光の『蹇蹇録』
をはじめ、外交官のメモワ
ールは、わが国に数多いが、外
務省を対象とした書物は、ジ
ヤナーリスティックなもの
で、河村欣二編『外務省』(1
956年)、一部に外務省を
扱ったアカデミックなもの
として、坂野正高『現代外交の
分析』(1971年)がある
ほか、きわめて数少ない。
それだけに、本書の出版は
待望久しきものだったといっ
てよく、第一部「失態と実態
——外務官僚と大使館」、第
二部「実績研究——霞ヶ関外
交の軌跡と問題」からなっ
ていて、暇わず読みすんでし
てきたベテラン記者であり、
外務省はこれぞよいのか、と
の立場から、これまでの日本
外交についてはもとより、外

私の専門の中国問題につい
ていえば、日中国交正常化に
「出番のなかった」外務省と
いう見方(一九ページ以下)
や、外務官僚が日中共同声明
の案文に不満だった(二六ペ
ージ)という指摘も、外務省
は中国問題では一貫して後向
きだという、著者の先入観に
とられすぎてている。
むしろ、当時は、省内が日
中アームに乗っていた感じだ
し、著者がそのような機構は
まだないかと思っている。「外
交問題懇談会」のようなもの
(二一八ページ)に、田中、

大平両相の帰国を迎えたあと
出席した法眼次官(当時)は、
「今回の日中交渉には一二〇
点をつけられる」と自讃して
私を驚かせたものである。
また、「外務官僚が交渉の
場に登場したのは、田中首相
が訪中した時が最初にして最
後である」(二五ページ)と
いうのも事実とはまったくち

がっている。
こうして、本書は大変面白
く、ユニークで意欲的な著作
だが、これらのミスや事実誤
認、ないしはゴシップ調が目
立ちすぎることは、説得的な
外務省批判にならないので
ないか、と惜しまれてならな
い。(サイマル出版会112
00円)

「水原の檻」(タンカン・カイ
ル 渡辺栄一郎訳 ハヤカワ文
庫 330円)は男っぼさで
突っ走る正統派冒険小説で
ある。

ニューヨークに冷たいみ
ぞれが叩きつけていた。
医師、ジョン・エドワー
ズは一通の封書を受け取っ
た。中味はロシア語で印刷
された小冊子で、手紙は同封
されていた。いった
い何の本で誰
が送ったもの
なのか。消印
はモスクワに
なっている。

日曜娯楽本

その夜、エドワーズはバ
ーティイに出かけた。エド
ワーズのMGが公園を通り
かかったとき、ライトを上
向きにした車が猛然と追
いあげてきた。その車はMG
の脇腹に激しく、大きな音
をたててぶつかった。
封書が到着して以来、エ
ドワーズの身辺で不気味な
襲撃事件が続いた。

封書は誤配されたものら
しい。エドワーズはあて名
を思いかえてみた。「ア
メリカ地理学会員、エドワ
ード教授」。アメリカ地理
学会のリストには「エド・
ワード」の名があった。し
かし、ワード教授はすでに
殺されていた。

事件はCIAの手に移さ
れ、綿密な調査が始められ
た。封書はソ連邦国家保安
委員会によって
監禁されている
科学者コマロフ
からのSOSだ
った。封書のあて先「ニュ
ーヨーク東75番街60番」が
監禁場所を示していた。
北緯75度、東経60度。ソビ
エトの北極地方、ノバヤゼ
ムリヤ島である。
CIAはエドワーズを含
む六人のチームに、コマロ
フの救出を命じた。舞台は
一転して北極の原野へ。エ
ドワーズたちの凄絶な戦い
が始まった。

新刊選

明治・父・アメリカ

星 新一
明治27年、星一、二十歳。米国籍
チャイナ号でアメリカに向った。
荷物の中に「西園立志編」が入っ
ていた。星が最初にした仕事は
スクール・ボーイ。アメリカ人の
家庭に住み込みでやとわれるので
ある。若く輝く国アメリカに夢を
賭ける父・星一の青春記。
[筑摩書房11850円]

小説複合汚染への反証

遊佐雄彦著
ゴキブリに合成洗剤をかけると
死んでしまう。故に合成洗剤は猛
毒である、と「複合汚染」は言
ふ。しかし、ゴキブリが死ぬのは気門
という呼吸をする穴が、洗剤でふ
さがれるからである。毒死はな
く窒息死なのだ。「複合汚染」のデ
ータはすべて正確なのだろうか。
[国際商業出版11720円]

官僚王国論

草柳大蔵
欧米の役人は「機能」である。
計画・計算・分析などの能力しか
提供していない。日本の役人は常
に天下国家を意識して強力な行政
指導をする。
大蔵省など八省四庁の中で明日
の日本を構築する官僚たち。その
生態と意識構造を分析した評論。
[文藝春秋11000円]

日本の古典名著総解説

自由国民社編
男はそのうえに伏し、股は床に
かくす。女、その陰をあげてもっ
て玉経を受く。ゆるやかにどうよ
うし、八段二深す。とは丹波麻
頼の「医心方」。「ぞんじ」「古事
記」「源氏物語」から「源氏物語」
「中条漢語」まで、はては「法華
経」にいたる古典三百編を解説し
た小辞典。
[自由国民社11500円]